

平成21年3月17日

札幌市市民まちづくり局企画部企画課  
(創造都市さっぽろ推進会議) 御中

芸術・文化フォーラム (ACF)  
代表理事 原子修  
(創造都市さっぽろ提言ACF検討会議)

「創造都市さっぽろ」(2009年2月)(素案)に対するACFからの提言原案

[はじめに]

わたしたちACF(芸術・文化フォーラム以下同様)は、かねてより、市民主導の創造性豊かな芸術・文化の花咲く札幌をねがって、市民・芸術文化関係者・行政・経済人の協働による活力あふれるまちづくりのあり方を、多くの方々の意見をもとに提言すべく努めてきた。

この度の、「創造都市さっぽろ」への提言(～創造性と暮らす街、さっぽろ～)は、長期的・広域的にみれば、北の文化圏の中核都市としての世界的な役割を期待されている。その素案に対し札幌市にとって画期的な意義をもつものと思われま。

この構想は、勿論、ハードの面とソフトの面とで共に有機的に検討していかなければならないが、とりあえず現段階における素案策定について、創造都市の基本機能に芸術・文化施策があり、市民・芸術文化関係者・行政・経済人のネットワーク化をはかるACFの立場から、以下

1. 「創造都市さっぽろ」とは
2. 「創造都市さっぽろ」の推進基本方針について

の2点から、提言をとりまとめ、北の創造都市をめざす札幌のこれからのあゆみの一助としたい。

#### 1. 「創造都市さっぽろ」とは

(1) 「札幌らしさ」の気質についてふれているものの、「寛容な気質」「先取りの気風」については、多くの札幌市民の気質把握としては不十分といえます。むしろ目線としては札幌在住以外の多くが感じる目線と思われま。札幌における目線を「外部目線・内部目線」に分けて札幌らしさの議論を深める事が重要と考えま。札幌における「内部目線」の一例としては、

- ①よこならび指向
- ②あたらしい物好き
- ③きれい好き
- ④自然指向

これらから考える視点として、「外部と内部の協働」が重要なキーワードと考えま。ACFとしての活動の視点も同様と考え、外部からの芸術的刺激と内部における芸術育成が両輪として必要と考えています。今後の展開に反映いただければ良いと考えま。

提言① 「外部と内部の協働」を視点に加えて考える

(2) この基本方針について、「創造的…」 「創造性…」の意味が明確になっていないように思います。一般的な市民にとって創造性という概念は、掘り起こすものであり、刺激し育成するものと考えます。「創造都市とは…市民一人ひとりが自分なりの価値を生み出すことのできるまち」と言っても良いと考えます。それには明らかに教育の根幹に触れる事が重要と考えます。札幌における創造都市の概念に「教育再構築」による「創造都市さっぽろを担う人づくり」が不可欠と考えます。そのためには、何をすべきなのかふれていくことこそが重要と考えます。北海道を担う札幌にとって重要な一次産業への担い手育成の道筋や、食文化の推進、札幌の活性化を担うための芸術・文化への道筋など、北海道の活性化に向けた人材供給基地さっぽろ、更には世界へあらゆる情報を発信することができる人材の育成が求められているのではないのでしょうか。それには「教育イノベーションさっぽろ」が必要であり、また、「創造都市さっぽろ」における行政としても従来の延長線上に無い創造性が求められていると考えます。

提言② 「創造都市さっぽろ」を担う人づくりを明確にする

提言③ 「創造都市さっぽろ」における行政の創造性を進化させる

提言④ 「教育イノベーション都市さっぽろ」への脱皮

## 2. 「創造都市さっぽろ」の推進基本方針について

(1) ここに書かれている4点の基本方針については、異論は無いものの「創造都市さっぽろを担う人づくり」を加えてはどうかと考えます。それには、「市民一人ひとりの創造性を原動力」とあるが、そのための具体的な育成拠点として、「知恵を貸し出す図書館」が急務と考えます。広域的守備範囲のコンサルタントを育成し、あらゆる創造性を活用した産業への進出や市民自らの事業への展開、事業マッチング、職業選択へのミスマッチングの排除など「知恵を貸し出す図書館」は従来に無い市民の創造性を育成するものと考えます。また、情報の持つ進化性から多くの人々が集う都心に位置することによって、より活性化することが可能と考えます。

提言⑤ 「知恵を貸し出す図書館」を都心に創る

参考～日経新聞2009.2.14「図書館、地域の情報拠点に」

(2) 「創造都市さっぽろを担う人づくり」の現実化施策については、地元にある大学活用が重要と考えます。各種施策実現へ向かうプロセスにおいて、そのプロジェクトに大学生を参加させ、活動をしてもらい自立的人材育成と専門化育成を図ることが育成への活性化になると考えます。大学生は公開されたプロジェクトを選定し応募し競争化によってやる気を創出し、参加することによって単位が付与され、その結果によって就職への道筋となり職業選択へのミスマッチングの排除につながると言えます。「知恵を貸し出す人材」の育成についても、諸外国や、東京中心のMBA（経営修士号）取得マーケットをさっぽろで実現できることがいっそうまちづくりとなります。また自立的人材育成は幼児期からの育てが重要と言われていますが、創造性を育むためにもあらゆる年齢層において創造的活動や参加できる環境づくりに行政が支援することはいうまでも無いと考えます。

提言⑥ 大学における自立的人材育成とコンサルティング的（例MBA）専門家育成

提言⑦ あらゆる年齢層において創造的活動や参加できる環境づくりに行政が支援

(3) 「創造都市さっぽろ」の推進にあたって、産業構造における位置づけやまちづくりを考える場合の位置づけなど推進概念の階層化（ポジショニング）が見える必要があると考えます。食料供給基地としての北海道や観光立国北海道、ものづくり北海道等々の概念の配置も考える必要が有ります。

提言⑧ 「創造都市さっぽろ」の推進概念の階層化（ポジショニング）

(4) 「創造都市さっぽろ」の推進にあたっては、札幌市文化芸術基本計画との位置づけについて言及されていません。札幌市における文化芸術あふれるまちづくりとどのように係るか明確にしていくことが重要といえます。展開イメージや重点プロジェクトの例にあるような芸術・文化を基盤とする「創造都市さっぽろ」の推進を上位概念として存在させることによって、都市形成概念が出来上がると考えます。また、芸術・文化の産業化も大きな推進要因と言えます。

提言⑨ 「創造都市さっぽろ」の推進概念と札幌市文化芸術基本計画との位置づけ

(5) 「創造都市さっぽろ」の推進にあたって創造的市民やアーティストの育む場の提供が重要と考えます。イメージにあります地下歩行空間の利用などの活用にも期待すると共に、あらゆるパブリックスペースや、企業空間、市内のレストランや喫茶店等の空間において芸術が花開く「場のネットワークと活用」が重要と思います。「芸術・文化の地産地消」が創造空間を生むと考えます。

提言⑩ 「創造都市さっぽろ」における「芸術・文化の地産地消」

(6) 「創造都市さっぽろ」の推進組織について、市役所内部組織と外部推進組織との連携や協力によって推進するとありますが、もっと責任を有する「協働の概念」を明確にすることが望ましい。

この重要な推進組織についてクリエイティブディレクターは、札幌を良く知っていることと、従来の考え方に左右されない民間人や、学識者が望ましいと考えます。

提言⑪ 「創造都市さっぽろ」の推進組織は協働が望ましい

[おわりに]

「創造都市さっぽろ」の推進は、札幌アイデンティティ（S I）の確立と言えます。札幌らしさとは何か、世界に唯一の都市札幌といわれる都市形成こそが創造的だと思います。北海道は四季が明確です。四季を視点とし自然を損なうことなく人間と共生する広大な北海道を牽引する札幌こそが求められています。それには人の知恵を持って創造的環境を育み、従来の延長線にない教育イノベーション（改革）が重要と考えます。